穂高北小学校６年４組担任
増澤　遼　先生

本年度から穂高北小学校に赴任し、コサージュ作りを行いました。緑色の繭は初めてで、不思議な魅力のある色だと感じました。
みんな満足のいく作品を作れたと思います。コサージュは、子どもたちが心を込めて作ったので、おうちの方も喜ばれると思います。

コサージュ作りの講師
赤羽 悦子 さん

コサージュ作りの講師として声をかけていただき、30 年近くになります。穂高北小学校の伝統行事となっていることをうれしく思うと同時に、感謝しています。
また、穂高北小学校で担当されていた先生方が転任先でコサージュ作りをしてくれていて、多くの方に天蚕が広まりうれしく思っています。教えた子どもたちの中から一人でも天蚕に興味を持って、将来天蚕に関われる人が出てくれたら幸いです。

穂高北小学校６年2組
熊井　桜花　さん(左)
有川　ひまり　さん(右)

お母さん、いつもありがとう。頑張って作ったよ。これ付けて卒業式にきてね。

穂高北小学校６年１組
戸嶋　楽音（らくと）　くん

お母さん、産んでくれてありがとう。

保護者
藤田 裕子 さん

天蚕を育てるところから活動していると聞いていたので、頑張って作ったのだと思います。すごくきれいで、うれしいです。
娘の気持ちがこもったコサージュを付けて卒業式に参列できることを、とても誇らしく思います。

天蚕業を次世代へ受け継いでいきたい―思いをつなぐ和菓子・紡ぎ最中

穂高北小学校の卒業生・丸山和花（のどか）さん（武蔵野美術大学４年）が、大学の卒業制作に、天蚕をモチーフにした和菓子「紡ぎ最中」を制作しました。卒業制作に込めた丸山さんの思いを聞きました。小学生のときに天蚕飼育をしていた経験が心に残っていました。実家が菓子舗ということもあり、天蚕をモチーフにした郷土銘菓で天蚕業を次世代へ受け継いでいきたいと思い、工場のみなさんの協力を得ながら試行錯誤して「紡ぎ最中」を開発しました。
「紡ぎ最中」は、緑色の繭を再現した最中の皮と、ゆず風味の白あん、繊維のダイヤモンドと称される天蚕糸をイメージした琥珀糖をセットにしたお菓子で、パッケージのコンセプトは「伝統を紡ぐ」。
私の作品によって、一人でも多くの人に天蚕業の魅力を知ってもらい、天蚕業の魅力を再発見していただければうれしいです。

紡ぎ最中

続く伝統が紡ぐ感謝の気持ち

２月28日、穂高北小学校では６年生の学習発表会が開かれました。クラスごと学習の成果を発表し、学年合唱をした後、子どもたちは保護者への感謝の気持ちとともにコサージュを渡しました。
　コサージュを手に保護者のもとへ駆け寄り、照れながらもまっすぐ目を見て、「６年間ありがとう。これを付けて卒業式に出てね」「感謝の気持ちを込めて作ったよ」などと伝えていました。コサージュを受け取った保護者は、その出来栄えに驚くと同時に、やさしい笑みを子どもたちに向けていました。自身も穂高北小学校を卒業したという保護者は、「当時、私も母にコサージュをプレゼントしました。今日息子からもらったこと、そして、コサージュ作りが続いていたことがうれしかった」と、目に涙を浮かべながら話してくれました。
　安曇野ならではの伝統文化・天蚕。天蚕糸は、繭１個だけでは紡げません。１本の糸にするためには、７個の繭をひねり合わせる必要があります。同じように、天蚕文化を守っていきたいと願うたくさんの人たちの思いも、コサージュ作りを通して子どもたちの記憶に残り、そして未来へ紡いでいきます。